

Title	28. 2013年度YOSAKOIサマースクール参加報告
Author(s)	先川, 信一郎, 坂本, 季実子
Citation	高知工科大学紀要, 11(1): 285-289
Date of issue	2014-07-20
URL	http://hdl.handle.net/10173/1176
Rights	
Text version	publ isher



Kochi, JAPAN

<http://kutarr.lib.kochi-tech.ac.jp/dspace/>

2013年度YOSAKOIサマースクール参加報告

先川 信一郎^{1*} 坂本 季実子²

(受領日：2014年5月7日)

¹ 高知工科大学 国際交流センター
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

² 高知工科大学 国際交流部
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

* E-mail: sakikawa.shinichiro@kochi-tech.ac.jp

要約：自然豊かな高知を舞台に海外の大学生と交流し、多様性と異文化を体験しようと、高知工科大学国際交流センター主催の2013年度サマースクールが、8月3日から12日まで行われた。本学のグローバル化戦略の一環で、サマースクールの実施は前年度に続き2度目。今回は、国際交流協定を締結している中国のハルビン工業大学、黒龍江大学、台湾の台湾科技大学、高雄第一科技大学、韓国の嶺南大学、タイのタマサート大学シリントン国際工学部、英国のサウスウェールズ大学、スペインのバレンシア工科大学の8大学から合計16人と、高知工科大学からバディ26人が参加した。学生たちはともに講義を受け、よさこい祭りに参加し、高知県西部を視察するなど、多彩なプログラムを通じて国際的な視野を広げた。

1. はじめに

グローバル化が進展する中、文部科学省は教育分野でも世界共通の価値観や世界規模の課題に対応できる人材を養成することに力点を置くようになった。世界の舞台で活躍し、国際的な貢献ができるグローバル人材の育成である。

世界と競争するためには、自己の能力を発揮し、基礎的・基本的な知識・技能の習得や課題を見いだして解決するための思考力・判断力・表現力などが求められる。この一歩として、近年はアジアの各大学が夏季休暇を利用したサマースクールを積極的に実施するようになった。本学でも異文化に触れ、「内向き」な学生の留学へのモチベーションを上げるため、昨年からは国際交流の柱として「YOSAKOIサマースクール」を企画している。

狙いは、海外の学生に本学の様子を知ってもらうとともに、日本人学生が同世代の若者との交流を通じて異文化を理解し、切磋琢磨することにある。海外や日本の学生たちは、このサマースクールでグローバル化に不可欠な「共存・協力」「多様性」を学ぶことができるはずだ。もちろん、本学としては大学間交流を促進し、交換留学を促すことにつな

ることも視野に入れている。

その一方で、グローバル化を目指す学生に求められるのは、自分たちの国の政治、外交、歴史、文化、芸術などを語るコミュニケーション能力である。それには、実践的な英語力を鍛えることも当然のことながら必要となる。

2. YOSAKOIサマースクール

2.1 概要

2013年度は、本学と提携している中国のハルビン工業大学、黒龍江大学、台湾の台湾科技大学、高雄第一科技大学、韓国の嶺南大学、タイのタマサート大学シリントン国際工学部、英国のサウスウェールズ大学、スペインのバレンシア工科大学の8大学に各2人の学生の派遣を依頼した。

いずれの大学もグローバル化を目指す方向性では一致しており、本学のYOSAKOIサマースクールへの招待を歓迎。逆に前年度にYOSAKOIサマースクールに参加したタイの泰日工業大学などからも、本学にサマースクール参加の誘いがあった。また、黒龍江大学は、事務局宣伝部のHe Yingleiさんが2人の学生とともに本学を訪問した。



写真 1. 講義に熱心に聞き入る参加学生



写真 2. Welcome lunch ではすぐに友人に

YOSAKOI サマースクールの期間は 2013 年 8 月 3 日から 12 日までの 10 日間で、日本人バディとしては、志望理由や積極性、英語力などを考慮し学生たちを選んだ。バディの中には、2013 年 3 月の本学主催のタイ研修参加者もいて、中心的な役割を担った。

2.2 プログラム内容

サマースクール初日の 8 月 3 日は、高知龍馬空港に到着した学生、引率職員を順次宿泊施設に案内した後、自由行動とした。夜は折から開かれている土佐山田祭りを楽しむグループもいた。

翌 4 日は、本学でオリエンテーションと各種プログラムが始まった。丁度この日はオープンキャンパスが行われており、全員がバディの案内で学内の施設や教室を回り、パネル展示を楽しんだり、集合写真を撮って早くも打ち解けていた。この間、渡邊法美教授が「Glocalization for New Sustainable Development」の講義で、Global な視点を持ちつつ Local な活動に生かすことの重要性を指摘。5 日午前、八田章光教授が「Electronics and Photonics for Sustainable Development」の講義で自然エネルギーの活用方法に触れ、国際交流センターの先川が、「Introduction to Japanese Culture」と題して比較文化論から見た日本の位置付けを紹介した。午後は日本人学生が日本文化や高知工科大学のプレゼンテーションを英語で行った。

海外からの参加学生は、ほとんどが初めての日本だったが、本学での華道、書道、茶道の体験で、一様に高知と日本が気に入った様子だった。

6 日～7 日は土佐清水市と足摺岬への 1 泊のバス旅行が行われた。途中、カツオのたたきの昼食を食べ、車中で自己紹介や歌の披露もあり、さらに友好



写真 3. 四万十川の川下りを前に少し緊張ぎみ

が深まった。また、ジョン万次郎資料館では、幕末に漂流後救助され、アメリカの教育を受けて帰国して明治維新に影響を与えた万次郎の足跡に思いを馳せていた。

ハイライトは、四万十川でのカヌーによる川下りで、炎天下で清流の感触を楽しんだ。ちなみに同日の四万十市は 41 度という日本一の暑さを記録していた。それでも日本人学生たちは、夜は花火大会に天体観測、肝試し、昼は河原でスイカ割りをするなど、プログラムを工夫してくれ、サマースクールは予想以上の盛り上がりを見せた。

サマースクール 6 日目の 8 日は、午前 9 時から 3 時間、体育館でよさこいの練習が行われた。しかし、前日の川下りと体育館の暑さで全員が疲労困憊していた。とにかく、脱水症状を起こさないよう給水を心掛けるよう呼びかけた。

その中で午後 2 時から東京芸大の若手演奏家による「心に響く音楽の調べ」のコンサートは、印象



写真4. 浴衣で花火大会を楽しむ学生たち



写真6. 楽しい時間はあっという間に過ぎて



写真5. 炎天下のよさこいに汗びっしょり

に残ったようだ。フルート、バイオリン、ピアノによるチゴイネルワイゼンや幻想即興曲、花は咲くは感動的だった。9日は自由時間だったが、参加学生たちはバディとともにそれぞれ高知城や、ひろめ市場を見学したようだ。

よさこい祭り本番の10日は、参加学生は国際チームとして、午前11時過ぎから午後9時まで、追手筋や高知城、帯屋町、愛宕、イオンモール会場で鳴子両手に踊り続けた。高知は、この日ばかりはよさこい一色で熱気に包まれた。昼間の最高気温は35度前後だったにも関わらず、ほぼ全員が生き生きとした笑顔で踊りを楽しんでた。

最終日の11日は、夕方から振り返りと Farewell party が開かれた。中国の学生がピンクの古典的な衣装で中国舞踊を披露し、日本人学生がアカペラを歌うなど、参加学生にとっては忘れられない夏となったようだ。

3. おわりに

欧米やアジアのトップレベルの大学をみると、日本の各大学の国際化が遅れている感は否めない。今や海外への留学生は、中国、韓国、インドが日本を追い抜いている。

これは学生が「内向き」というより、海外への留学経験者を優先的に採用しない企業側にも問題があるのではないかと。言い方を変えれば、「内向き」でグローバル化に遅れているのは、実は企業の方なのである。とはいえ、そうした企業風土を変える人材、グローバルに活躍できる人材を輩出するのも大学の役目であろう。

YOSAKOI サマースクールは、本学におけるグローバル人材の育成と国際交流を促進する戦略の柱の一つであり、これまでに一定の成果を挙げているのは間違いない。

学生たちに感想を聞くと、「みんなともっと話したかった」「多くの発見があった」「世界に対する見方が広がった」といった声が目立った。すでに全員が Facebook など連絡を取り合うようになっており、各国の情報を交換したり、留学への意欲を示したりするなど、交流は格段に深まった。

今後の課題としては、開催時期が集中講義やインターンシップと重なったため、全期間を通じて参加できた日本人学生が少なかった点が挙げられる。また、グローバル化にさらに力点を置くならば、「科学技術」「国境」「異文化」などのテーマを設定して、グループディスカッションなどの機会を設けてもよいだろう。

謝辞

YOSAKOI サマースクールの海外からの参加者をサポートしてくれた学生のみなさん、忙しい合間を縫って書道や華道、茶道を指導して下さったみなさんに感謝します。高知工科大学の教職員の方々にもご足労をおかけしました。1人でも多くの若者が、多感な学生時代を笑顔で過ごせるよう今後ともご協力をよろしくお願い致します。

YOSAKOI Summer School report

Shinichiro Sakikawa^{1*} Kimiko Sakamoto²

(Received: May 7th, 2014)

¹ International Relations Center, Kochi University of Technology
185 Tosayamadacho-Miyanokuchi, Kami, Kochi, 782–8502, JAPAN

² International Relations Division, Kochi University of Technology 185
Tosayamadacho-Miyanokuchi, Kami, Kochi, 782–8502, JAPAN

* E-mail: sakikawa.shinichiro@kochi-tech.ac.jp

Abstract: The International Relations Center of Kochi University of Technology conducted an international summer program called “YOSAKOI Summer School” in August 2013. The goal of the program was to let our students interact with foreign students, deepen the friendships with each other and to understand the importance of multicultural coexistence and advancement of globalization. The total of sixteen students from eight foreign universities which have international exchange agreements with KUT, participated. They are Harbin Institute of Technology, Heilongjiang University, China, National Taiwan University of Science and Technology, National Kaohsiung First University of Science and Technology, Taiwan, Yeungnam University, Korea, Thammasat University, Thailand, University of South Wales, United Kingdom, and Polytechnic University of Valencia, Spain. All students enjoyed academic programs, cultural exchanges, study tour to the western part of Kochi Prefecture and even joined the local dancing “YOSAKOI festival”. Through these activities, YOSAKOI Summer School played an important role for activation of international cultural exchange not only in the KUT campus but also in the Kochi area.